

## 家庭で使う生ごみ処理容器等の種類

一般に以下のような種類があります。

種類		特徴	メリット・デメリット	価格
バイオ型	コンポスト	地中の微生物の力で生ごみを堆肥にする。 生ごみが多く出る家庭向き。	生成物は優良な堆肥原料となる。 管理が比較的簡単。 設置できるだけのスペースが必要。(畑など) 堆肥化まで時間がかかる。 臭いや虫が発生することがある。	3,000 円位~10,000 円以上するものもある。
	段ボール容器 ※補助対象外	段ボール箱の中に、微生物の入った基材を入れた簡単なもので、微生物の力によって生ごみを分解し、堆肥にする。	生成物は優良な堆肥原料となる。 毎日の管理が必要(攪拌、温度管理)。 基材代がかかる。 臭い・カビ・虫が発生することがある。	
	密閉式容器	容器にボカシを入れ、微生物により生ごみを分解し、堆肥にする。 処理過程で発生する、発酵液も水で薄めることで堆肥として利用できる。 ※ボカシとは…米ぬかやもみ殻などを EM 菌(有効微生物群)と混ぜ合わせたもの。	生成物は優良な堆肥原料となる。 密閉式のため、虫が発生しづらい。 小型で屋内でゴミ処理ができる。 毎日の管理が必要(攪拌、発酵液の取り出し) ボカシ代がかかる。 虫が発生しづらい。臭いが発生することがある。	3,000 円位
	手動式生ごみ処理機	処理機に微生物の入った基材を入れ、好氣的微生物の力によって生ごみを分解し、堆肥にする。容器にハンドルが付いており、ハンドルを回して内容物を攪拌させる。	生成物は優良な堆肥原料となる。 基材代がかかる。 臭いが発生する。	
	電動式生ごみ処理機	処理機に微生物の入った基材を入れ、好氣的微生物の力によって生ごみを分解し、堆肥にする。内容物の攪拌を電動で行う。	生成物は優良な堆肥原料となる。 電気代と基材代がかかる。 臭いが発生する。	60,000 円以上~ 190,000 円位
乾燥型	電動式生ごみ処理機	生ごみを電気で加熱し、乾燥させて減量する。 生成物を堆肥としては利用しづらい。	操作が簡単で処理時間が短い。 臭いが少ない。 乾燥させるだけであるため、生ごみの分別が不要。 処理機が比較的コンパクト。 電気代がかかる。	50,000 円位~ 80,000 円位
ハイブリッド型	電動式生ごみ処理機	生ごみを送風乾燥してから微生物で分解処理する方法で、乾燥型とバイオ型の両方の長所を生かしたもの。	生成物は堆肥原料となる。 バイオ型ほど臭わない。 新たに基材の投入が不要。 バイオ型と同様に処理時間がかかる。 電気代がかかる(乾燥式ほどはかからない)。	

※ 段ボール容器は補助対象外です。

※ 機種によっては、伊那市内販売店で取扱をしていない場合があります。市外販売店での購入は補助対象になりませんのでご注意ください。

※ 価格は H23 年度補助実績のあった種類について表示しています。